

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：農学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <p>(1)平成18年度に開始したコース制の卒業生に対するアンケート等を引き続き実施し、学部教育の改善を図る。</p> <p>(2)平成20年から開講の内閣府提案の「地域活性化システム論」や真庭市との連携により平成23年度から開催している「バイオマス産業体験講座」などの科目を通して学生と社会との交流を深める。</p> <p>(3)農学部フェアと同時開催の収穫祭における学生支援を積極的に行なう。平成20年開始の保護者との懇談会を引き続き開催し、改善を図る。</p> <p>(4)成績不振学生に対する担任・指導教員による指導を引き続き徹底し、留年生の減少を目指す。</p> <p>(5)ART(生種補助医療技術)教育研究センターを開設し、農学部・医学部(保健学科)両学部で特別コースカリキュラム完全実施するとともに、学部実習関連設備の整備とインターンシップ研修受け入れ機関の組織化を図る。</p> <p>(6)全学MPコースの教育に従来通り参加し、多様な人材輩出を推進する。</p> <p>(7)優秀な成績を修めた学生や社会活動への貢献が高い学生などへの学部長賞表彰制度ならびに外部英語検定試験のスコアに応じた検定料補助制度を実施する。</p> <p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1)留年生を卒業予定者の10%以内に止めるよう(4)の項目に注力する。</p> <p>(2)学生のモチベーションを向上させるために、学部長表彰10件、語学検定料補助5件を目標とする。</p>	<p>自己評価</p> <p>(1)今年度も全卒業予定者を対象とした「学部教育に関するアンケート」等を実施し、その結果を集計・分析して全教員に周知した。「学部教育に関するアンケート」では、約9割の学生が本学部の教育に肯定的な評価をしており、また、「授業評価アンケート」では全授業の平均が、5段階で4.0以上の水準となっている。さらに、評価の高かった講義のピアレビューや教員を対象とした英語教育を実施し、教員の教育力の向上を図った。これらのことから、学部教育の改善が十分に図られていると考えられる。</p> <p>(2)平成20年度以来開講している、内閣府提案の「地域活性化システム論」を今年度も開講し、農学部と地域活性化をテーマとして、公開シンポジウムを含む全3回の集中講義を実施した。また、地方公共団体や地域農業者等と連携し、「農家体験実習」、「まきばの実習」、「バイオマス産業体験講座」等の授業を開講した。これらは、地域社会との双方向交流による体験型の授業であり、学生の社会に対する理解を深めるとともに、現場での課題および解決手法について学ばせ、実践的能力の育成が図れた。</p> <p>(3)農学部フェアと同時開催の収穫祭における学生支援を積極的に行い、学生と地域との交流を推進した。また、平成20年開始の保護者との懇談会を今年度も開催し、本学部の教育に対する保護者のニーズを調査するとともに、本学部の教育活動に対する理解を向上させた。</p> <p>(4)成績不振学生に対する担任・指導教員による指導を徹底した結果、今年度は、127名中115名(90.6%)が卒業し、留年者の割合を10%以下に抑えられた。</p> <p>(5)医学部(保健学科)と連携して「生種補助医療技術キャリア養成特別コース」を開講し、キャリア教育を一層充実させた。また、10月1日付けで「生種補助医療技術教育研究センター」を設置し、実習関連設備の整備を行うとともに、同センターを中核として、地域の医療機関と連携を深め、インターンシップ研修の受け入れ機関の組織化を図った。</p> <p>(6)全学MPコースの教育に引き続き参加し、多様な人材輩出を推進した。今年度は、MPコース定員(16名)のうち4割を超える7名の学生が、農学部で卒業課題研究を行った。</p> <p>(7)11件の学部長賞表彰を行い、学生の学習意欲の高揚と、社会貢献に対する意識啓発を図った。また、8件の外部英語検定試験のスコアに応じた検定料補助を実施し、グローバル化に対応するための語学力の向上に努めた。</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>(1)科学研究費補助金、受託研究費など外部資金獲得に向けた積極的な取組みを図る。</p> <p>(2)学部内外における共同研究を推進させる。</p> <p>農林水産省中国四国農政局、岡山県、国立大学法人岡山大学及び岡山県農業協同組合中央会の四者による農業分野及び関連分野に係る包括連携協定を基盤とした産学官共同研究を積極的に推進する。この提携に基づいた教育研究プロジェクト(地域活性化システム論)、シンポジウム(農学部シンポジウム)、産学官連携推進セミナー等により積極的立案・実施する。資源植物科学研究所との合同セミナー並びに共同研究などの取組みを一層充実させる。</p> <p>(3)これまで実施してきたアジア・アフリカ諸国の大学等との交流協定を基盤とした国際学術交流を進展させるとともに、アジア・アフリカ関連の共同研究や共同プログラムの実施を推進する。</p> <p>(4)学部内に設置されているNPO法人「中四国アグリテック」の協力を得て農学部教員の産学官連携研究のさらなる展開を図る。中四国アグリテックが関与する外部資金獲得セミナーへの積極的参加をこれまで以上に促す。</p> <p>(5)新設された「生種補助技術キャリア養成コース」を基盤とした共同研究活動の推進</p> <p>(6)真庭市との連携による「バイオマス産業体験講座」を基盤とした共同研究活動の推進</p> <p>(7)最終評価年度となるWTT教員(2名)のテニュア取得に向けた研究・教育をバックアップする。</p> <p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1) 科学研究費補助金の申請については、新規申請者数+継続件数/教員数×100の値が100%を超える状態を維持する。</p> <p>(2) 共同研究費・受託研究費について30件以上の獲得数を維持する。</p>	<p>自己評価</p> <p>(1)科学研究費補助金、受託研究費など外部資金獲得に向けた積極的な取組みを行った。昨年度と比較して、科学研究費補助金は、採択件数が35件から38件に、受入金額も86百万円から103百万円に増加し、共同研究費・受託研究費は、今年度31件を受け入れ、目標としていた30件以上を維持し、受入金額も159百万円から170百万円に増加した。また、科学研究費補助金の申請についても、新規申請者数54件+継続件数22件/教員数66人×100の値が115%となり、目標を達成した。</p> <p>(2)学部内外における共同研究、受託研究を活発に推進した。農林水産省中国四国農政局、岡山県、国立大学法人岡山大学及び岡山県農業協同組合中央会の四者による農業分野及び関連分野に係る包括連携協定に基づいて設置されている産学官連携推進会議には、農学部長、副学部長が参加しており、今年度も産学官連携事業に積極的に取り組み、「地域活性化システム論」、農学部シンポジウム「中四国四の農産物マーケティング戦略を考える」等を実施した。学内では、今年度も資源植物科学研究所との合同セミナーを開催して人的交流を図り、共同研究を推進した。また、11月1日に岡山大学で開催された「知恵の見える市2013」にも3名の教員が参加し、研究成果を発表した。</p> <p>(3)アジア・アフリカ諸国の大学等との交流協定を基盤とした国際学術交流を進展させた。資源植物科学研究所とも連携し、本学部教員がコーディネーターとして「東アジアにおける有用植物遺伝資源研究拠点」事業を実施し、国際共同研究を推進した。また、ケニアのジョモ・ケニヤッタ大学との研究交流を継続し、アフリカにおける共同研究プロジェクトを進展させた。</p> <p>(4)NPO法人「中四国アグリテック」と連携し、産学官連携による研究活動を推進した。また、外部資金獲得につながるセミナー等を学部長室から案内し、参加を促すとともに、アグリビジネスフェアに参加して研究成果の広報をするなど、産学官連携に向けた取組を積極的に行った。</p> <p>(5)10月1日付けで設置された「生種補助医療技術教育研究センター」と連携して、医学部保健学科とともに12月22日に公開シンポジウムを開催するなど、生種補助医療技術に関する研究活動を推進した。</p> <p>(6)「岡山大学農学部と岡山県真庭市との連携協力に関する協定」に基づき、今年度も真庭市との連携による「バイオマス産業体験講座」を開講するとともに、真庭商工会から「地域連携による循環型地域内経済の活性化をはかるための調査」を受託し、地域活性化に関する研究を推進した。</p> <p>(7)最終評価年度となった2名のWTT教員について、研究・教育をバックアップしてきた結果、本年度2名とも高い評価を受けてテニュア資格を取得した。今後も、来年度が最終評価年度となる2名のWTT教員の支援を行い、女性教員の増加に向けた取組を継続する。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標</p> <p>(1)農学部附属山陽園フィールド科学センターの活動を通じた地域貢献をさらに進め地域農業の活性化に貢献する。</p> <p>(2)「地域活性化システム論」、「農家体験実習」、中四国大学連携フィールド演習や大学間共同利用実習等、学内外関係者が関与する講義・実習科目における人的交流を通じて地域活性化に教職員・学生が積極的に関与する。</p> <p>(3)グッドジョブ支援センターとの連携を中心に「農業による福祉的雇用の促進」、「福祉的農業の確立」のためのプロジェクトを進める。</p> <p>(4)農学部および農学部附属山陽園フィールド科学センター主催の公開講座を引き続き実施し、中高生あるいは一般市民に農学のフィールドを体験してもらうとともに農学の広報に努める。</p> <p>(5)農学部附属山陽園フィールド科学センター販売所、農学部玄関および百貨店等における農産物販売を引き続き実施し、一般市民・学生・教職員へ、新鮮で安全・安心な農産物を提供するとともに、農学・農業の重要性を社会へ発信する。</p> <p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1)農学部および山陽園フィールド科学センターにおいて3課題の公開講座を実施する。</p> <p>(2)山陽園フィールド科学センターにおいて、中四国大学連携フィールド演習2科目を実施する。</p> <p>(3)大学コンソーシアム岡山で「農場体験実習」を開講し、食品・栄養系、教育系学部学生の受入を拡大する。</p> <p>(4)全学開放科目「農家体験実習」を開講し、県内の農家に宿泊して実習を行い、地域農業者との交流を図る。</p> <p>(5)山陽園フィールド科学センターにおいて、大学間の共同利用実習を提携3大学と継続する。</p>	<p>自己評価</p> <p>(1)農学部附属山陽園フィールド科学センターでは、地域の企業と連携して「岡大農場」の商標を活かした、商品開発を行った。また、「農家体験実習」の実施、大学間の共同利用実習として、岡山理科大学、くらしき作楽大学、中国国大学フィールド実習の実施、「岡山市緑化推進フェア」等への参加など、地域との交流を図った。これらの活動を通して、地域貢献を推進し、地域農業の活性化に貢献した。</p> <p>(2)国、地方自治体、地域農業者等と連携して、「地域活性化システム論」、「日本農業論」、「農家体験実習」、「美作まるごと食農体験実習」、「農業者との車座トーク」を発展させた「地域農業活性化実践論」、中四国大学連携フィールド演習科目である「牧場実習」、「晴れの国岡山 農場体験実習」の2科目等を開講した。「晴れの国岡山 農場体験実習」は、大学コンソーシアム岡山の開講科目であり、食品・栄養系、教育系学部学生を他大学からも積極的に受け入れた。学外関係者が参加したこれらの講義・実習科目を通じて、双方向による人的交流を図り、教職員・学生が地域活性化に積極的に関与した。</p> <p>(3)農学部附属山陽園フィールド科学センター販売所にPOSシステムを導入し、販売所を改修して、販売業務をグッドジョブ支援センターに全面的に委託するとともに、センター販売所以外での販売も拡大し、「農業による福祉的雇用の促進」と「福祉的農業の確立」を推進した。</p> <p>(4)農学部公開講座「森のふしぎ・木のふしぎ」、農学部附属山陽園フィールド科学センター公開講座「育てて食べようおいしい夏野菜-家庭菜園のツボ2013」及びジュニア公開講座「秋が旬の果物に関わる秘密を探ろう」の3公開講座を開催し、地域貢献を推進するとともに農学の広報に努めた。</p> <p>(5)農学部附属山陽園フィールド科学センター販売所、農学部玄関、大学生協、天満屋における農産物販売を引き続き実施し、一般市民・学生・教職員に新鮮で安全・安心な農産物を提供した。また、農学部フェアや農学部シンポジウムを通して、農学・農業の重要性を社会に発信した。</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>今年度も評価の高かった講義のピアレビューや教員を対象とした英語教育を実施した。また、新たに卒業生及び就職先企業・官公庁等へのアンケートを実施する等、教育の質の向上に注力した。これらの取組を継続的に進めてきたことにより、本学部の授業評価は高い水準を維持している。また、社会的要請に応え、学生のキャリアアップを図り、高度な専門職業人の養成を目的として、昨年度開講した「生種補助医療技術者養成コース」を、医学部保健学科とともに生種補助医療技術者キャリア養成特別コースとして更に充実させた。10月1日に設置された「生種補助医療技術教育研究センター」と連携し、実習関連設備の整備を行うとともに、地域の医療機関と連携を深め、インターンシップ研修の受け入れ機関の組織化やリカレント教育に向けた整備を行っている。</p> <p>研究関連の取組では、NPO法人中四国アグリテックからの情報提供を活用した外部資金獲得への取組を活性化させるとともに、産学官地域連携協定に基づいたシンポジウムやセミナーの開催、あるいは共同研究の実施等を積極的に推進するとともに、アジア・アフリカ諸国の大学等との交流協定を基盤とした国際学術交流を進展させた。また、最終評価年度となった2名のWTT教員が、本年度高い評価を受けて、2名ともテニュア資格を取得する等、女性研究者の育成も積極的に行っている。</p> <p>社会貢献の分野では、附属山陽園フィールド科学センターを中心に、地域農業者、地方自治体、周辺の大学等と連携して、地域活性化の取組を行った。今後も地域社会との双方向による人的交流を図り、教職員・学生が地域活性化に積極的に関与し、地域貢献を行っていく。</p> <p>本年度も学部長のリーダーシップの下、学部長室を中心に学部運営を行い、教育、研究、社会貢献等全ての分野において、本学部の目標を十分に達成できたと思われる。今後も引き続き本学の目標に沿った積極的な学部運営を行っていく。</p>	